

海外技術協力促進検討事業[継続]

【131(146)百万円】

対策のポイント

農業インフラシステムの輸出及び農業農村開発協力をより効果的に実施し、我が国の経済成長及び世界の貧困削減に貢献するため、途上国に適応する土地改良技術等の検討を行います。

<背景/課題>

- ・長年、我が国は、政府開発援助(ODA)を通じて、アジア・アフリカ諸国等の途上国の貧困削減、食料の安定供給、経済成長のため、農業農村開発分野での技術協力を行ってきました。
- ・近年、アジア諸国では、インフラ需要が益々高まるとともに、我が国の食産業も注目されつつあり、我が国の食産業の海外展開と途上国の経済成長の実現(=輸出環境整備)を目的としたフードバリューチェーン(FVC)の構築のため、各国政府との政策対話及び官民連携による農業分野のインフラシステムの海外展開に取り組んでいます。
- ・一方、アフリカでは依然として貧困削減のため食料増産が必要であり、特にコメは需要が増加する中、輸入に依存しているため、価格の高騰等により生活に多大な影響を与えています。このため、日本政府は、第4回アフリカ開発会議(TICADIV)で、アフリカのコメ生産倍増を目標に掲げたところです。

政策目標

本事業実施後5年間に採択される農業農村開発分野のプロジェクトにおいて、本事業の成果が活用される。(3件以上)

<主な内容>

1. 農地整備海外展開促進調査 47(44)百万円
途上国において、農地や施設、農地の権利関係の現状把握・整理手法、利害関係者の合意形成手法、自然・地理的条件や権利移動の制約に応じた整備手法を検討の上、モデルほ場で実証し、ほ場整備手法を考案します。
2. かんがい水管理技術海外展開支援調査 41(41)百万円
水管理システムのハード技術(計測機器やコンピュータ機器、遠隔操作機)とソフト技術(農業用水の水管理)の適用可能性の検討・実証により、適用可能技術を特定し、運用マニュアルを策定します。また、併せて水管理技術の海外展開を検討します。
3. アフリカ水資源利用効率化促進調査 43(43)百万円
アフリカのかんがい稲作地域における水管理体制のあり方、水利施設の補修・整備手法、ほ場レベルでの水管理手法等を検討・開発し、モデル地区にて実証後、水資源利用の効率化のためのマニュアルを作成します。

補助率：定額
事業実施主体：民間団体等
事業実施期間：1、3の事業 平成29年度～平成33年度
2の事業 平成27年度～平成30年度

[お問い合わせ先：農村振興局設計課 (03-3595-6339)]

海外技術協力促進検討事業 (うち、農地整備海外展開促進調査)

背景・現状

農林水産業・地域の活力創造プラン

- 輸出環境整備のため、「日本の食産業の海外展開と経済協力の連携等によるフードバリューチェーン構築を推進」

インフラシステム輸出戦略

- FVC構築のため、各国政府との政策対話及び官民連携による農業分野のインフラシステムの海外展開に取り組む

ほ場整備のニーズの高まり

- 急速な経済発展に伴う農村部の労働力不足
- 労働力不足を補う策として農業の機械化を推進するため、ほ場整備のニーズが高まっている

資金の流れ

国

補助金(定額)

民間団体等

課題

- 農地及び水路・農道等の既存施設の現状を把握する必要
- 農地の権利関係及び面積・形状等の個別の農地に関する情報を収集する必要
- 土地の形状変更等権利関係に関わり、事業実施までに計画策定・合意形成に一定の時間を要する

各国の状況に応じた整備を実施するため、各種情報収集・整理、合意形成等を効率的に行う手法を開発する必要

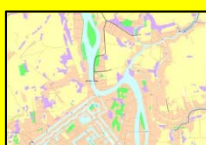
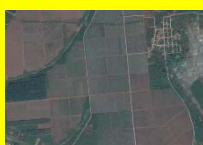


事業内容

- ①農地・施設の現状把握・整理手法、②農地の権利関係の把握・整理手法、③利害関係者の合意形成手法、④農地等に関する現状把握及び権利移動等が困難な場合の実施可能なほ場整備手法について検討を行う。
- モデルほ場において、上記手法について実証調査を実施する。



現状



ウェブ上で公開されている衛星画像やGISを活用し、情報収集・整理

整備内容・合意形成手法等を検討



実証調査

期待される効果

- ① ほ場整備によってFVCの上流である「生産」部門が強化されることにより、当該国のFVC構築が図られ、経済発展及び我が国の農林水産物・食品の輸出拡大に貢献
- ② 我が国民間企業の有するほ場整備に関する技術の海外展開を推進

海外技術協力促進検討事業 (うち、かんがい水管理技術海外展開支援調査)

背景・現状

かんがい施設の管理 労力・コストの増加

○これまでのODA協力を通じて、かんがい整備を進めてきており、管理対象施設が増加

気候変動

○近年の異常気象に伴い、アジア各国では、干ばつ及び洪水の被害が増加

インフラシステム輸出戦略 農林水産業・地域の活力創造プラン

○経済協力(インフラ整備等)と民間投資の連携によるバリューチェーンの構築

資金の流れ

国

補助金
(定額)

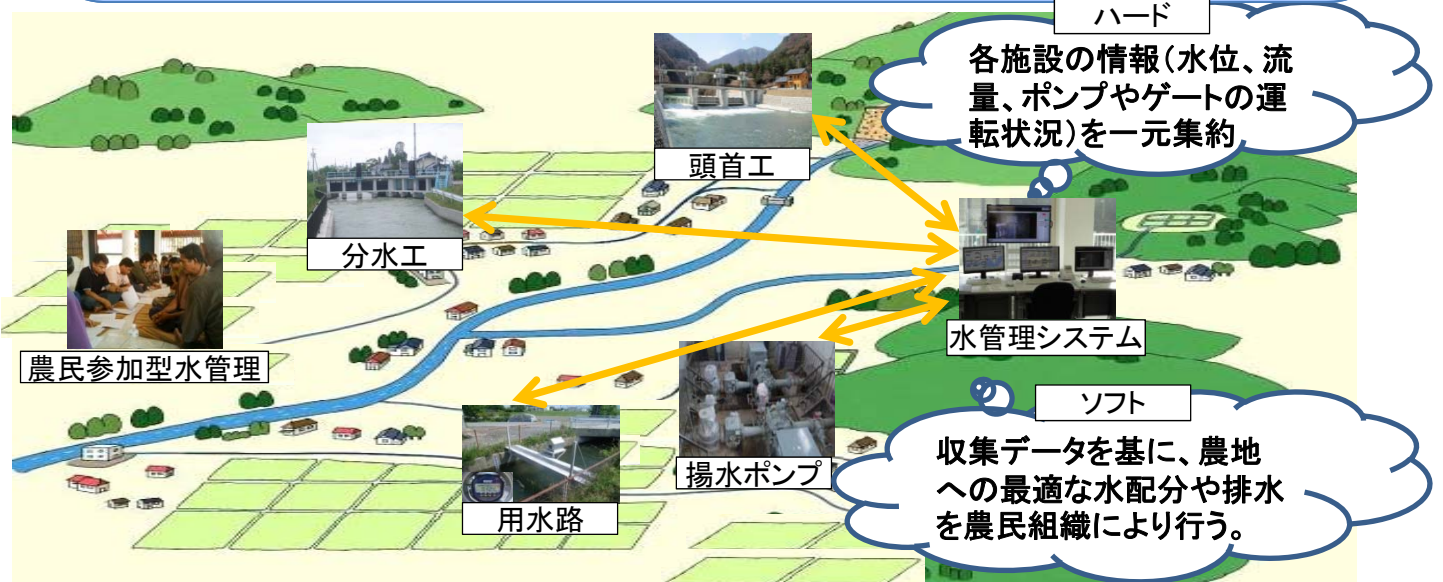
民間団
体等

売り込む技術:水管理システム

○我が国は、農業水利施設の情報(水位、流量、ポンプやゲートの運転状況等)や気象情報を回線を通じて一元集約すると共に、それらのデータに基づき各農業水利施設を遠隔操作する水管理システムの構築・導入に係る技術・農民組織を形成しシステムを操作するノウハウを有している。

○メリット:各施設の情報や気象状況を基に、
平常時・干ばつ時に、農地への適切・正確な水配分が可能
洪水には、円滑な排水により対応できる
→きめ細やかな水管理により、高品質な農作物を安定生産

○海外展開の際の課題:日本の水管理システムは、途上国にとっては高度かつ高価であり、各国の経済状況・施設や農業用水の管理状況・洪水や干ばつのパターンに合わせた水管理システムの開発が必要。

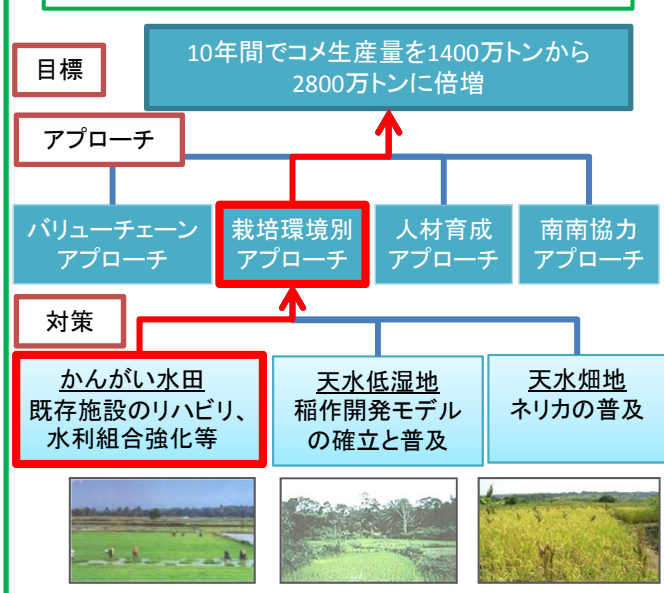


事業内容

- 干ばつや洪水対応を通して、安定した農業生産を実現し、フードバリューチェーンの構築に貢献。
- 各国の経済状況・施設や水の管理状況に合わせた水管理システムの開発・実証を通じ、水管理システムに関する民間企業(IT企業やコンサル)の海外展開に貢献。

海外技術協力促進検討事業 (うち、アフリカ水資源利用効率化促進調査)

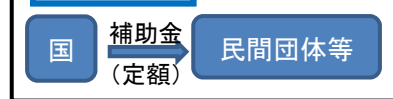
CARDにおける目標達成のためのアプローチ



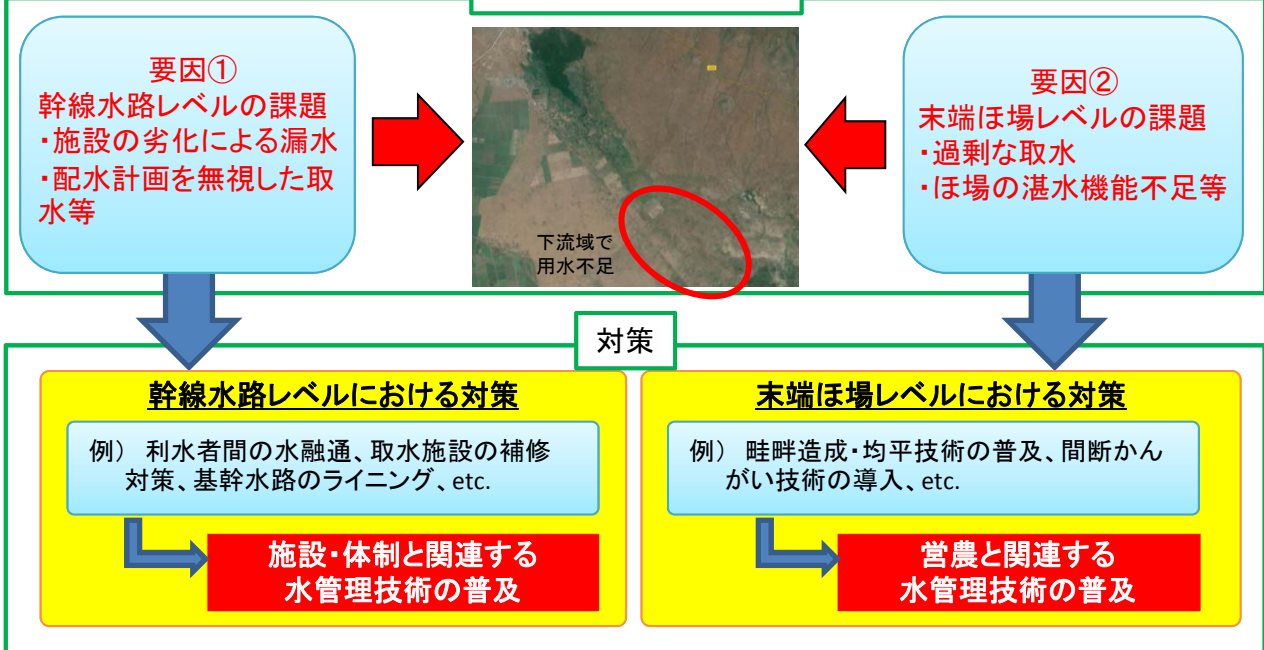
背景・現状

- アフリカでは農業従事者が人口の約7割を占める一方、農業のGDPに占める割合が3割に過ぎず、農業分野の生産性向上が貧困削減における課題の一つ。
- これまで資金協力等で水利施設の建設や改修が行なわれて来ているが、かんがい用水が末端まで届かず、計画した面積にかんがいできていない事例が出てきている。
- アフリカに適した、水利施設の改修・補修方法や、水利組合のあり方について検討する必要がある。

資金の流れ



水資源についての課題



事業内容

- 水管理体制のあり方、水利施設の補修・整備手法、ほ場レベルでの水管理手法等を検討・開発し、モデル地区にて実証する。
- 水資源利用の効率化のためのマニュアルを作成。

期待される効果

- 水資源利用の効率的利用により、コメ生産の拡大を図り、アフリカにおける食料の安定的供給に資すると共に、TICADのフォローアップに貢献。